

しあわせの空

本校教育目標

第7号

豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成



令和2年7月10日
熊本市立田迎小学校
校長 松本 公一

○好きだけど苦手

話すのは好きだけど文章を書くのは苦手、歌うのは好きだけど音楽の授業は苦手、実験や観察、見学旅行や校外学習は好きだけど考えをまとめたりするのは苦手等、好きだけど苦手というものが少なからずあると思います。

実験や観察、見学旅行や校外学習は、子どもたちの「なぜ？どうして？」や「すごい！わかった！」を生み出す大きな効果があるのは確かです。問題は、興味や関心、疑問をもったのに、そのまま放っておいて消えてしまっているということでしょう。子どもたちの「？」や「！」を「自ら学ぶ」につなげられるような働きかけや、ゆとりをもって追究していく環境づくりによって大切に育てていくことが大切だと思います。

好きであることを生かして学習を仕組むことができれば、苦手と思うことが減らせるのではないかと思います。初めて担任した5年生男子が、「僕は話すのはいいけど作文が苦手です。何と書いたらいいのかわかりません。」と言ってきました。察するところ、作文は5W1Hで起承転結をはっきりさせなければならない等、様々な縛りのために書くことに抵抗を感じていたと思います。「今話したことをそのまま書いてごらん。頭に浮かんだ独り言をそのまま書けば立派な作文になるよ。」と答えました。2日後、この男の子は74枚もの作文を書いてきました。

理想とする型を身に付けさせる指導も大切ですが、一方で子どもの心に火をつける指導のあり方を探っていくことも必要だと思います。

○校門一礼

数年前、4月転任したある学校の校長先生が、「びっくりしました。うちの子どもたちは校門で一礼して登校するんです。全校児童にすばらしいことだから続けてくださいという話をしました。」と話してくれました。高校や運動部活動ではこの校門一礼、競技場一礼をよく目にしますが、小学生が「今日もこの学び舎でしっかり勉強します。よろしくお願いします」「今日も一日お世話になりました。ありがとうございました。」の意味を込めて一礼することが習慣になっていることを知り私も驚きました。

田迎小はというと、授業開始と終了時、「お願いします」「ありがとうございました」と一礼していますが、校門で一礼する子どもを見たことがありません。私はこの話を聞いて、せめて玄関に入る時や職員室に入る時には一礼しようと思いつけています。

○ひっかけ問題

簡単そうに思えて実は間違えてしまうという問題を紹介します。「深さ10mの井戸の中にカエルがいました。地上に出ようと昼間3m登りますが、夜の間に2m下がってしまいます。このカエル、何日目に地上に出ることができるでしょうか。」

どうですか？1日で考えると3m登って2m下がるから、1日あたり1mずつ登っていくと考え、深さ10mの井戸だから10日だと暗算できそうですね。しかし、答えは10日ではありません。解答は次号で。